

## 塗料 訂正のお知らせ

以下のように訂正いたします。

### ●180頁 上から12～13行目

白色となるのは太陽光線を吸収しない顔料特有の特性であり、屈折率とは直接関係しない。例えば、表5-2に示すように、べんがらの屈折率はチタン白のそれと同程度であるが、茶色である。



粒子が白く見えるのは、図5-8に示す可視光線を吸収しないという顔料特有の性質に起因する。そして、ビヒクルとの屈折率差が大きい白顔料を練入するほど、塗料は白くなる。表5-2に示すべんがらの屈折率はTiO<sub>2</sub>のそれと同じ程度であるが、べんがらを練入した塗料は茶色を示す。これは、べんがらが可視光線の一部を吸収するためである。

### ●180頁 下から4行目

～、光を吸収しないので～ → ～、可視光線を吸収しないので～

### ●180頁 下から2行目

～、隠ぺい力は大きいといえる。 → ～、隠ぺい力は大きくなる。

### ●182頁 上から2行目

～程度の粒子を～ → ～程度の白色粒子を～

### ●182頁 上から3～5行目

～。粒子の大きさと隠ぺい力の関係は、図5-4に示すように、顔料の種類とは関係がない。



～粒子の大きさと光の散乱能力との関係を図5-4に示す。

●182 頁 図 5-4 のキャプション

図 5-4 粒子の大きさと 隠ぺい力 との関係を示すグラフ



図 5-4 粒子の大きさと 光の散乱能力 との関係を示すグラフ

●182 頁 下から 8 行目

～平均波長領域である 550nm 付近の大きさと 隠ぺい力 が増大する。



～平均波長の 1/2 である 250nm 付近で 光の散乱能力 が最も大きくなるため、隠ぺい力 も大きくなる。

●218 頁 上から 11 行目

一方、塗膜の 伸び  $l$  は、 → 一方、塗膜の 伸び  $\Delta l$  は、

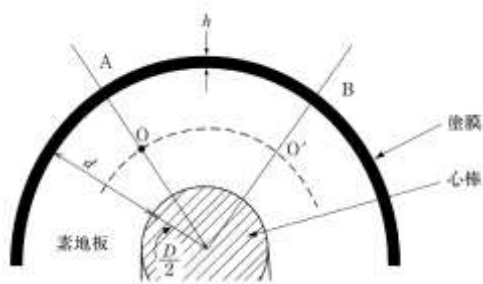
●218 頁 上から 12 行目 式の冒頭

$$\underline{l} = l - l_0 = \sim \rightarrow \underline{\Delta l} = l - l_0 = \sim$$

●218 頁 上から 14 行目 式の途中

$$\varepsilon_B = (\underline{l} / l_0) \times 100 = \sim \rightarrow \varepsilon_B = (\underline{\Delta l} / l_0) \times 100 = \sim$$

●218 頁 『図 5-46 折曲げ試験による塗膜の破壊伸びの計算』を以下に差し替える。



●218 頁 下から 2 行目

～撃ち台と受け台～ → ～撃ち型と受け台～

●219 頁 上から 10 行目

撃ち台と受け台が落球式と～ → 撃ち型と受け台が落体式と～